



# 持続可能なふるさとの豊かな営みを創出するグローバル人材の育成

## 目指す人材像

グローバルな視点を持ち、地域の活性化に資する人材

身に付ける  
資質・能力

- 地域や世界と関わりながら、自分で考え、主体的に責任を持って行動できる力
- 多文化共生社会をめざし、外国人と協働して課題を発見し解決できる力
- 世界的な視野で地域の資産を生かして、新しい産業を生み出す起業力

## これまでの先進的な取り組み



高校生議会



海外での研究発表



バイリンガル観光ボランティア



市民講座企画

発展  
全学年で実施

## 2019年度からの取り組み

保・幼・小・中・高の一貫した探究学習

海外高校生との国際協働探究学習

地域・行政・企業等と地域の課題解決

学校設定科目「グローバル英語・社会」

## 丸岡高校が描く未来

- ◆ 5年後  
地域住民が主体的に町づくりに参加
- ◆ 10年後  
新幹線効果で観光発展  
外国人観光客増
- ◆ 15年後  
若手起業家誕生  
新しい産業 人口増

## 主な予定

- 2019.7 中国より短期留学受入
- 8 タイ国ヘスタディーツアー
- 9 金沢大学ラウンドテーブル
- 10 丸岡城古城祭りに参画
- 12 台湾研修で現地調査・発表  
お城EXPO2019に参加
- 2020.2 県教育総合研究所で発表  
坂井市議会で発表  
福井大学ラウンドテーブル
- 3 丸岡城サミットで発表  
運営指導委員会
- 8 生徒国際イノベーション  
フォーラム2020で発表
- 12 台湾研修で現地調査・発表
- 2021.3 丸岡城サミットで発表
- 9 金沢大学ラウンドテーブル
- 12 台湾研修で現地調査・発表  
県教育研究所で発表
- 2022.2 福井大学ラウンドテーブル

## 地域や海外との協働による取組

### 人材育成モデル

目指す  
人材像

社会と関わりながら自分で考え、主体的に責任を持って社会を変えていける  
グローバルリーダーの育成 (Agency)

3年生

持続可能な社会をめざし、グローバルな視点で地域を担える生徒の育成

2年生

ローカルで行動できる生徒の育成

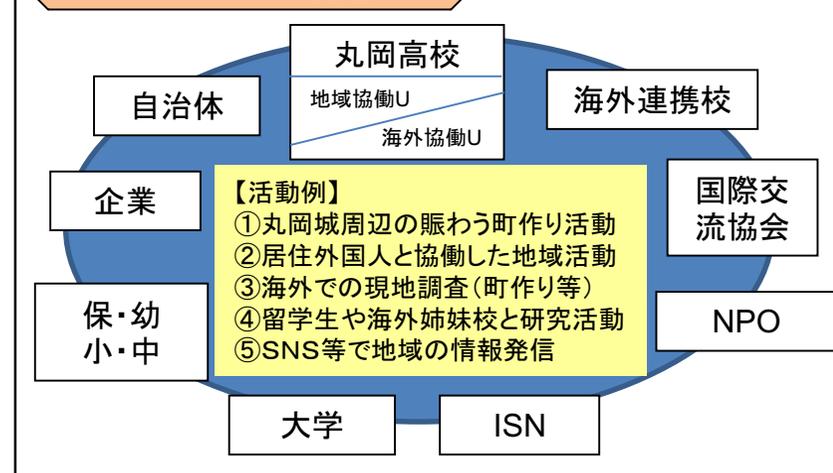
1年生

グローバルな視点で考える生徒の育成

### 課題解決のためのコンソーシアムとの協働

1. 地域の課題を行政・企業・NPO等が学校と連携し協働して解決していく。
2. 地域課題の解決のために生徒が海外連携校等の様々な主体と協働しながら取り組む。
3. 課題解決に必要なカリキュラム開発は教職大学院と連携し推進する。
4. スタディー・ログ等のポートフォリオとして収集されたデータは、生徒の資質向上の効果測定のために、大学の研究者が分析する。
5. 本校で学ぶ留学生の生活や語学学習をコンソーシアムが支援する。

### コンソーシアム全体概観



ふりがな	ふくいけんきょういくいいんかい	ふりがな	ふくいけんりつまるおかこうとうがっこう
管理機関名	福井県教育委員会	学校名	福井県立丸岡高等学校

## 2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

### 1 管理機関・学校の概要

#### (1) 管理機関名、代表者名

管理機関名：福井県教育委員会

代表者名：教育長 豊北 欽一

#### (2) 学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名：福井県立丸岡高等学校

学科：■普通科 □専門学科 □総合学科

校長名：河野 和博

### 2 取組内容

本校の取組計画は、過去3年間の「総合的な学習の時間」における探究活動をもとに、地域住民が国宝化を目指している丸岡城を中心に、人口減少や商店街の衰退を食い止めたいという高校生の思いから立ち上げたものである。同じ課題を抱える海外の高校生や、地域のコンソーシアムと連携し、グローバルな視野で地域の課題を探究しながら町の豊かな営みを取り戻していこうというプログラムである。この事業を通じて小さな一地域において、高校生が立ち上がった、ふるさと創生のモデルとしたい。

#### (1) 教科横断型のカリキュラムの研究開発と国際協働探究学習の推進

本校は、2018年度から、OECD日本イノベーションスクールネットワーク（以下 ISN）の実践校となり、台湾の高校との国際協働探究学習やタイでのスタディーツアー、福井大学の留学生との地域活動を行ってきた。2019年度からは学校設定科目として「グローバルスタディー英語」、2020年度から「グローバルスタディー社会」を実施し、2030年問題として指摘されている少子高齢化、産業振興、観光、環境、エネルギー等の地域の諸課題を解決するために教科横断型のカリキュラム研究開発を行う。教科横断型のカリキュラムの研究開発のため、海外の連携校、地元の大学や小中学校・行政機関・企業・NPO等の多様な個人や組織と対話・協働をしながら探究学習に取り組んでいく。

#### (2) 社会にイノベーションを起こす地域リーダーの育成

本校のある旧丸岡町は、丸岡城を中心に高度経済成長期には、繊維の町として栄えていたが、繊維産業の衰退と共に空き店舗が増え、人口減少等による高校の定員割れも進んでいる。本校では地域貢献・国際交流の特色選抜入試の実施や部活動として地域協働部の新設等を通して、地域リーダーの人材育成を推進する。地域でのフィールドワーク、地域のイベントの運営サポート、地元企業との商品開発やSNSを活用した情報発信、地元イベントでの地域との協働運営、地域への提言活動等を行い、社会にイノベーションを起こす起業家精神をもった人材を育成する。

#### (3) 海外からの留学生の受け入れとグローバル人材の育成

行政機関等と連携し、県の教育旅行誘致等により外国人留学生を受け入れ、国際交流を積極的に進めていく。また、県が導入したテレビ会議システムを活用し、海外の連携校や海外に拠点を置く地元企業と遠隔授業を実施し、地方に居住しながら、地域及び国際社会に貢献できるグローバル人材を育成する。

#### (4) コミュニケーション能力を重視した英語の授業実践

英語のコミュニケーション能力を高める効果的な指導方法として、問題解決型タスク（ADタスク Agree/Disagree Task）等を導入し、授業実践を行う。地域の自然・歴史・文化等の地域の特色を海外に向けて英語で説明や発信できる環境を整備し、海外の高校生や留学生等と英語で話す機会を増やすことにより、世界の諸地域の問題についての解決策を論理的に議論できる英語コミュニケーション能力を身に付けさせる。

### (5) 学びのポートフォリオの研究・開発

スタディー・ログ等の学びのポートフォリオとしてデータ収集された本校の探究は、生徒の資質向上の効果測定のために、大学の研究者が調査・分析する。大学の研究者が考察した成果は、ISNを通してOECDの国際プロジェクトEducation2030等での新しい学びのフレームづくりへ提供する。

### (6) 18年型探究学習モデルの研究・開発

地元にある丸岡城を中心とした町づくりに関する幼保小中高一貫したカリキュラム開発を行い、郷土愛を持ち地域社会に貢献できる人材を育成する。

### (7) 探究的な学びを指導できる教師の育成

地元の教職大学院に本校教員を派遣することで、学校組織のイノベーションを起こし、今後を見据えた探究的な学びの指導法や評価法の開発を行う。

## 3 管理・運営方法

### (1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名（敬称略）
福井県教育委員会	教育長 豊北欽一
坂井市	市長 坂本憲男
坂井市議会	議長 田中哲治
坂井市教育委員会	教育長 川元利夫
あわら坂井ふるさと創造推進協議会（アズAS）	会長 佐々木康男
坂井市まちづくり協議会	会長 坂本憲男
（一社）丸岡城天守を国宝にする市民の会	会長 松本富男
OECD日本イノベーション教育ネットワーク（ISN）	代表 東京大学教授 鈴木寛
福井大学連合教職大学院内 ISN探究チーム福井	研究総括 木村優
福井県立丸岡高等学校	校長 河野和博
福井県立丸岡高等学校PTA	会長 澤崎栄輝
坂井市立丸岡中学校	校長 畑山達哉
坂井市立丸岡南中学校	校長 柳原潤一郎
坂井市立平章小学校	校長 甲斐和浩
坂井市立長畝小学校	校長 山本一郎
（台湾）高雄市立福誠高級中学	校長 蘇清山

### (2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

#### ア 将来の地域ビジョン

- 2年後 公（行政）・民（地元住民・企業等）・学（学校）が連携して町づくりに取り組める機能が整備される。
- 5年後 丸岡での暮らしを楽しみながら、地域住民が町づくりなど様々な活動に主体的に参加している。
- 10年後 新幹線開業効果が浸透し、観光が基盤産業となって観光によって町の活力が向上し、住民の暮らしがよりよくなっている。
- 15年後 若手起業家により新しい産業が生まれ、地元就職やUターン促進によって流出人口が減少する。

#### イ 求める人材像等の共有方法

坂井市・あわら市と協賛企業等によって組織される「あわら坂井ふるさと創造推進協議会（アズAS）」に団体加盟し、地域が求める人材像を共有する。

### (3) コンソーシアムにおける研究開発体制

- ・県教育総合研究所の研究担当課が、学校の研究活動を指導・支援する。
- ・福井大学連合教職大学院へ現職の教員を院生として派遣し、連合教職大学院から指導・支援を

受けながら研究開発を推進する。

**(4) カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）、海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画**

①カリキュラム開発専門家

福井大学連合教職大学院 准教授 木村優

任期 2019年7月1日～2020年3月31日（2年目以降継続）

②海外交流アドバイザー

福井大学連合教職大学院 特命助教 王林鋒 (Wang Linfeng 中国)

任期 2019年度7月1日～2020年3月31日

福井大学連合教職大学院 コーディネーターリサーチャー ポリン・マングラブナン (比国)

任期 2019年度7月1日～2020年3月31日

元福井県総務部広報課情報発信専任職員 岩田 早希代

任期 2019年度7月1日～2020年3月31日

**(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画**

地域協働学習実施支援員 竹吉睦 (元福井県立坂井高等学校長)

任期 2019年5月1日～2020年3月31日（2年目以降継続）

**(6) 運営指導委員会の体制**

運営指導委員会 委員 (敬称略)

- ・元ヨルダン特命全権大使・元シドニー総領事 加藤重信
- ・(豪)ヤラキャピタルマネジメント社外取締役 出川昌人
- ・福井大学連合教職大学院 教授 三田村彰
  - ・福井県交流文化部 観光誘客課 課長 獅子原朋広
- ・坂井市総合政策部 企画情報課 課長 三上寛司
- ・一般社団法人アーバンデザインセンター坂井 サブディレクター 田谷良人

**(7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画**

・2019年度計画

- 7月 日本語学校の留学生との交流  
地域情報に関するウィキペディアへの編集と多言語化の実施
- 8月 タイ国スタディーツアーへ生徒派遣  
課題解決型学習発表会（中間発表会）に参加
- 9月 金沢大学高大接続ラウンドテーブル（金沢市）に参加し、他県の高校生と探究活動
- 10月 中間報告会（県内の各学校と Skype で結び中間報告）  
地域フィールドワークで聞き取り調査  
丸岡古城まつりに企画から参加  
ウィキペディアタウン in 丸岡開催（予定）
- 11月 グローカル NEWS 発行
- 12月 お城 EXP02019（横浜市）に参加し、丸岡城を中心とした町づくりについてポスターセッション発表  
台湾研修を行い、高雄市主催の研究大会（ASEP）で研究発表
- 2月 県教育総合研究所で県内の6つの高校と合同による課題解決型学習発表会  
坂井市議会主催の高校生議会に参加し、坂井市の活性化案について提案  
福井大学ラウンドテーブルに参加し、県内外や海外の高校生と交流活動
- 3月 市民団体が主催する丸岡城サミットで小中高生による合同研究発表会  
学校内で成果発表会  
運営指導委員会で1年間の活動検証  
報告書発行

2020年度以降は、運営指導委員会等での事業成果の検証を受け計画

**(8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援**

- ・ 県教委主催による課題解決型学習発表会を県教育総合研究所で実施
- ・ 県教育総合研究所の研究担当課が、講師の派遣等を通して学校の研究活動を支援

**(9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画**

- ・ 事業終了後は、本事業の目的を持続可能とするために、坂井市をはじめとして、一般社団法人「UDCSアーバンデザインセンター坂井」、一般社団法人「丸岡城天守を国宝にする市民の会」、あわら坂井ふるさと創造推進協議会（アズAS）に引き続き協力を求めている。

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	ふくいけんりつまるおかこうとうがっこう				②所在都道府県	福井県
2019～2021	①学校名	福井県立丸岡高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計		
普通科	125	111	148		384	全日制普通科	
⑥研究開発構想名	持続可能なふるさとの豊かな営みを創出するグローバル人材の育成						
⑦研究開発の概要	①文理融合のカリキュラム研究開発と国際協働探究学習の推進 ②社会にイノベーションを起こす地域リーダーの育成 ③留学生の受け入れとグローバル人材の育成 ④コミュニケーション能力を重視した英語の授業実践 ⑤探究的な学びを指導できる教師の育成 ⑥ポートフォリオの研究・開発 ⑦18年型探究学習モデルの研究・開発						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標 グローバルな視点を持ち、地域の活性化に資する人材の育成 (2) 現状の分析と研究開発の仮説 課題解決型学習のモデル開発は進んだが、継続性がなく、将来への展望が開いていない。今後は、記録や振り返りを充実させて、OECD ラーニングフレームワーク 2030 で示されているAARサイクル（Anticipation「見通し」-Action「行動」-Reflection「省察」）を繰り返し行う長期的なモデルへと昇華させていきたい。また、将来的な展望として、本校の課題解決型学習を「福井型 18年教育（幼児期から高校卒業までの期間を学校間・家庭・地域とが連携した一貫性のある教育）」として地域の幼保小中と協働して実践していきたいと考えている。					
	⑧-2具体的内容	(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画 ①グローバルな視点で考える生徒の育成 国際交流協会や外国人の方を講師に、異文化理解や多文化共生について学び、グローバルな視点を養う。また、坂井市における国際化の現状を知り、自ら問いを立て、地域の中で何ができるのかを考える。 ②ローカルで行動できる生徒の育成 地域でフィールドワークを実施して地域課題を捜し出す。また、課題について解決策を練り、高校生議会で坂井市議会や理事者に対して提案を行う。 ③地域の中核を担う生徒の育成 ・グローバルな視点で地域を支えるリーダーの育成のため、大学の研究室訪問や海外へ進出して活躍している地元企業等と連携し、Skypeを用いてキャリア探究学習を行う。 ・企業とのインターンシップ等を通して、地元企業を知り、ふるさとを支えている営みに触れてキャリア教育を推進していく。 ④海外研修および海外連携校との協働探究学習 ・日本語学校の留学生との交流事業 ・丸岡ロータリークラブ主催のスタディーツアーで、タイへの海外研修を行う。 ・台湾研修を行い、高雄市福誠高級中学校との生徒交流や高雄市主催の課題解決型学習発表会に参加する。 ⑤丸岡城サミット 地域の小中学校の児童生徒や海外姉妹校の生徒とともに、丸岡城を中心とした町づくりをテーマに小中学・高等学校を縦に繋いだ協働学習を福井型18年教育のプロジェクト学習版として実践し、国内外に向けて発表する。					

	<p>⑥丸高カレッジ「市民開放講座」  年3回程度実施。地域の中学生・高校生が一般市民の方々と一緒になって、地域の歴史やさまざまなトピックを題材に学び合い、歴史・伝統に対する理解を深めるとともに、地域の課題やその解決に向けて協議する。</p> <p>⑦丸岡城を中心としたウィキペディアタウンの作成  持続ある地域作りを目指した取り組みとして、海外からの留学生と本校生徒が協働して、丸岡城に関連するオンライン百科事典ウィキペディアの日本語ページを新たに加筆し、多言語（10カ国語）に編集することで、丸岡城を訪れた外国人観光客へ丸岡城の歴史や文化等を紹介する観光ボランティアの活動に取り組む。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制  ①カリキュラムの研究開発のため、海外の連携校、地元の大学や小中学校・行政機関・企業・NPO等の多様な個人や組織と対話・協働をしながら探究学習に取り組んでいく。  ②そのために、カリキュラム開発および評価の専門家として、木村優氏（福井大学連合教職大学院 准教授）を任命。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等  2019年度からは学校設定科目として「グローバルスタディー英語」、2020年度から「グローバルスタディー社会」を行う。</p>
<p>⑨その他  特記事項</p>	<p>海外留学生を積極的に受け入れ、国際協働探究学習の推進</p>